

平成27年度

# 運営に関する計画

## 中間評価

大阪市立十三小学校

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 全国学力・学習状況調査においては、国語・算数とも全国平均を下回ったが、学習理解度診断における通過率については、全学年 70 %以上を達成することができた。しかし、基礎的・基本的な内容の理解が十分でない児童や、一定の理解はできているものの、発展的な内容の理解は難しい児童がいるなど学力の二極化もみられる。家庭での読書や復習をする学習習慣が定着せず、困難をきわめている児童もいる。また、自尊感情が低く、自分のよさを見出せなかったり、自信をもてなかったりする児童もいる。話し合い活動や発表などを取り入れた児童主体の授業形態を重視するとともに、「読みの観点」の習得・活用、習熟度別指導、個別指導等で「できる」「わかる」を実感できる取り組みを行う。
- 早寝、早起きができていない児童は約 1 割おり、睡眠不足、偏りのある食生活など、健康面で課題がある。また、運動能力・運動習慣調査では、全国平均を超える項目もあるが、持久力や柔軟性に欠けることが明確になった。生活習慣を改善し、日常的に運動する習慣を身につけさせていくようにする。
- 学級での活動、なかよし班活動、異学年交流などを通して、相互理解の機会を多くとってきたので、温かい人間関係が築けるようになってきた。今後も、日々の学校生活や各教科・道徳・特別活動などを通して自分の気持ちを相手に伝え、相手の立場も理解できる児童の育成を目指していく。
- 家庭・地域の連携の推進は、年間の取り組みを当初に発信することで共通理解が図られ、目標の倍以上の参加を得ることができた。しかし、学校からの情報発信に関心を持ちにくい家庭があり、情報の内容を工夫したり、ホームページの内容をさらに充実したりして、取り組み内容が保護者・地域の方々に共通理解できるようにする。

### 中期目標

#### 【視点 学力の向上】

- 平成 28 年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を 10 %以内にする。  
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を 80 %以上にする。  
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を 80 %以上にする。  
(カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)

#### 【視点 健康・体力の保持・増進】

- 平成 28 年度、学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を 90 %以上にする。  
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、「食育」に関する指導力の向上を目指し、年 6 回以上の公開授業を実施する。平成 28 年度末の学校アンケートにおいて「食について楽しく学ぶことができた」という項目について「はい」と答える児童の割合を 90 %以上にする。  
(マネジメント改革関連) (カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20 mシャトルラン (持久力)」の平均記録を全国平均以上にする。  
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成28年度、学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成28年度、学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成28年度、学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を90%以上にする。(カリキュラム改革関連)

## 【視点 学校・地域の連携】

- 平成 28 年度、学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間 400 人以上にする。  
(ガバナンス改革関連)
- 平成 28 年度、学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を 90% 以上にする。  
(保護者アンケートにより検証する) (ガバナンス改革関連)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【視点 学力の向上】

- ① 平成27年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を15%以内にする。  
(カリキュラム改革関連)
- ② 学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を75%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ③ 学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。  
(カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)

### 【視点 健康・体力の保持・増進】

- ① 学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか。」の項目について「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。  
(カリキュラム改革関連)
- ② 食に関しての知識を広め、食への興味・関心を高めるために、全学年で「食育」に関する授業を実施し、学校アンケートにおいて「食について楽しく学ぶことができた」と答える児童の割合を85%以上にする。  
(カリキュラム改革関連)
- ③ 全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20mシャトルラン(持久力)」の平均記録において、全国平均以上にする。  
(カリキュラム改革関連)

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。  
(カリキュラム改革関連)
- ② 学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。  
(カリキュラム改革関連)
- ③ 学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を85%以上にする。  
(カリキュラム改革関連)

### 【視点 学校・地域の連携】

- ① 学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間350人以上にする。  
(ガバナンス改革関連)
- ② 学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を85%以上にする。  
(保護者アンケートにより検証する)  
(ガバナンス改革関連)

大阪市立十三小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成 状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 平成２７年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を１５％以内にする。 (２．６％) (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を７５％以上にする。 (８３．１％) (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を８０％以上にする。(７６％) (カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)</p>		B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<b>取組内容①【区分 基礎・基本の定着】</b> 基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、3～6年生の国語と算数における習熟度別指導を充実させる。 (カリキュラム改革関連)		B
<b>指標</b> 習熟度別指導を年間540時間以上実施する。(450時間)		
<b>取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】</b> 国語科の研究や研修を通して、児童の読む力を育てる。 (カリキュラム改革関連)		B
<b>指標</b> ① 全学級が「読みの観点」の習得・活用に関する授業研究を年1回以上実施する。 (3学級が実施済) ② 国語が「好き」「楽しい」と答える児童を75%以上にする。(67%)		
<b>取組内容③【区分 言語力や論理的思考能力の育成】</b> 各教科や領域指導において、コミュニケーションの育成を図る言語活動を取り入れた授業を行う。 (カリキュラム改革関連)		B
<b>指標</b> 各教科・領域指導において、ペア発表やグループ発表・全体発表などコミュニケーションの育成を図る言語活動を取り入れた授業を1日に2回以上行う。(1日平均1.9回)		
<b>取組内容④【区分 学習習慣の確立】</b> 全学年で毎日課題を提供し、学校の復習をさせる。 (カリキュラム改革関連)		A
<b>指標</b> 課題の提出率を80%以上にする。(83.8%)		
<b>取組内容⑤【区分 ICTを活用した教育の推進】</b> 各教科や領域指導にICTを活用し、授業を行う。 (グローバル化改革関連)		B
<b>指標</b> 各教科や領域指導でICTを活用した授業を週2回以上行う。(週2.1回)		
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>		
<b>【視点 学力の向上】年度目標の達成状況</b> ・ 全国学力・学習状況調査や各単元テストにおいて、目標を大きく上回ることができている。 ・ 学力向上委員会を中心に、今の児童に必要な学力について話し合い、全教職員で共通理解し、取り組みを進めてきたことで、その効果が出てきている。 ・ 「復習をしている」と答えている児童は、目標の80%に達していない。		

#### 取組内容①【区分 基礎・基本の定着】の進捗状況

- ・ 現段階で目標時間の半分を大幅に超えており、年間の目標を達成できる見込みである。
- ・ 習熟度別指導を算数・国語科ではほぼ全時間取り入れている。習熟度別学習担当者と学級担任が密に打ち合わせをし、個に応じた指導が行き届くようになってきており、児童の学習意欲も高まってきている。
- ・ 東書 Web の復習プリントや漢字、計算の練習プリントなどを活用することで、ひとりひとりの学習理解度に合わせて指導を行うことができ、基礎的・基本的な内容の定着を図れるようになってきている。

#### 取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】の進捗状況

- ・ 講師先生による国語科の研修会を2回実施、国語科の様々な研修会への参加、研修内容の伝達研修等を随時実施し、校内研修の充実を図っている。
  - ① 全学級による「読みの観点」の習得・活用に関する授業研究の計画を立てている。(現在3学級が実施済) 授業研究を通し、児童の読む力を育てるための授業展開の在り方について全教員で研究を深めることができています。
  - ② 国語を「好き」「楽しい」と、答える児童は67%にとどまっている。

#### 取組内容③【区分 言語力や論理的思考能力の育成】の進捗状況

- ・ コミュニケーションの育成を図る言語活動を取り入れた授業を行い、基本的話型を提示しているので、話し合うことに抵抗感はなく、活発に行われるようになってきている。
- ・ 話すこと、聞くことを楽しむ児童が増えてきた。

#### 取組内容④【区分 学習習慣の確立】の進捗状況

- ・ 復習を中心に、どの学級も毎日課題を提供している。提出チェックや声掛けにより、家庭学習を意識する児童は増えてきており、課題の提出率は目標の80%を上回っている。

#### 取組内容⑤【区分 ICTを活用した教育の推進】の進捗状況

- ・ 電子黒板や大型テレビの映像を学習の導入部分に使用したり、書画カメラを使って児童のノートを紹介したりしている。また、インターネットを使った調べ学習や、NHK 配信の教育ビデオ、デジタル教科書の活用を通して、視覚的に理解できる教材を適宜利用している。

### 今後の改善点

#### 【視点 学力の向上】の改善点

- ・ 学力向上委員会の取り組みを今後も継続・改善していく。
- ・ 生活習慣の確立、家庭での学習環境の整備等、家庭への啓発を様々な場面で行っていくようにする。  
家で学習がしにくい児童には、放課後ステップアップ教室に参加するように積極的に促していくようにする。また、教室で個別指導をしていくようにする。

#### 取組内容①【区分 基礎・基本の定着】の改善点

- ・ 習熟の度合いにあった授業や学習内容の工夫を進める。  
教科書問題+活用問題・発展問題をするコース  
教科書を中心に学習するコース
- ・ 国語科における習熟指導を充実させていく。(補充プリント等の準備など)
- ・ 暗唱詩文等を階段に掲示し(段と段の間)、児童が楽しんで学べるような言語環境を整える。

#### 取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】の改善点

- ① 研究授業の成果と課題をまとめ、全教職員で共有することで今後の実践に生かしていく。随時、ミニ研修・実践報告等を行い、「読みの観点」取得のための手立てについて共通理解するようにする。

- ② 国語の楽しさを児童に感じさせる場面を日常的に作り出すようにしていく。
- ・ 全員で声を出して音読・暗唱する場面を多く作っていく。
  - ・ 話し合い活動や調べたことを伝え合う活動などを積極的にもつようにしていく。
  - ・ 文を読む観点を持って読んでいくように意識させることで「わかった」「できた」という実感を持たせていくようにする。

**取組内容③【区分 言語力や論理的思考能力の育成】の改善点**

- ・ 聞き方「あいうえお」話し方「かきくけこ」の指導の徹底を図り、友だちの考えを聞くことができるようにする。
- ・ アクティブラーニングに向け、相手を意識してわかりやすく伝えることができるように、話し合いマニュアルの活用をすすめる。
- ・ 発表力を鍛えるために、授業の中でどの児童も発表できるよう、声を出すことに慣れさせる。(ペア発表の回数を増やし、自分の意見に自信をもたせる。発表時は、相手意識を持たせ、自分の意見をみんなに聞かせるようにする。)
- ・ ペアでの話し合いでは、話型や声の大きさを意識して話せるよう指導する。

**取組内容④【区分 学習習慣の確立】の改善点**

- ・ 家庭学習が定着しにくい児童には、放課後ステップアップの活用を呼びかける。学習内容の理解が十分でないために取り組みにくい児童には、放課後等に個別指導を行うなどの支援をしていく。自主的に取り組めるよう、習慣化するまでは家庭との連携を図りながら粘り強く支援・指導を続けていく。

**取組内容⑤【区分 ICTを活用した教育の推進】の改善点**

- ・ 先進校の取組等を参考にしたり、お互いにアイデアを交流したりして、タブレット端末の操作や運用の仕方を共通理解し、児童の学習に生かすことができるようにしていく。
- ・ タブレット導入を見越した指導計画の作成・準備を進める。
- ・ タブレットを活用した実践例を集め、紹介する。
- ・ タブレット機器等の研修を進める。

大阪市立十三小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持・増進】</p> <p>① 学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を 80%以上にする。（86%）（カリキュラム改革関連）</p> <p>② 食に関しての知識を広め、食への興味・関心を高めるために全学年で「食育」に関する授業を実施し、学校アンケートで「食を楽しく学ぶことができた」と答える児童を 85%以上にする。（後期にアンケートを実施）（カリキュラム改革関連）</p> <p>③ 全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20mシャトルラン（持久力）」の平均記録において、全国平均以上にする。（後期に全国平均の発表あり）（カリキュラム改革関連）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>生活目標や健康週間、保健指導や学級指導等を計画・実施し、「給食後のはみがき」の習慣を身につけさせる。（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標 ① 毎月「きら・ピカウイーク」を設定し、食後の歯みがきの意識づけを図る。（実施済）</p> <p>② 健康週間を学期に1回設定し、学期ごとに「給食後のはみがき」の達成状況をグラフ化する。（実施済）</p>	B
<p>取組内容②【区分 食育】</p> <p>授業実践や学校保健委員会・給食指導・栄養指導・給食委員会による活動などにより「食育」に関する取組を行い、食の知識を広め、食への興味・関心を高める。（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標 ① 給食時間に、給食カレンダー・献立表を活用した指導を毎日行う。（毎日行っている）</p> <p>② 給食委員会で、年2回「食育」に関する取組の発表をする。（6月に発表済）</p> <p>③ 食育教材となる栽培活動を計画し、全学年が野菜作りを行う。（全学年が行っている）</p> <p>④ 授業参観で食育に関する授業を年1回以上行う。（秋に実施予定）</p>	B
<p>取組内容③【区分 体育的活動の充実】</p> <p>外遊びやなわとび運動を推進し、体力向上への意識を高める。（カリキュラム改革関連）</p> <hr/> <p>指標 ① 学期に1回「なわとびチャレンジ週間」を実施し、年間を通してなわとび運動に取り組ませる。（5月に実施済）</p> <p>② 運動場が使える時は、1日3回以上、外遊びに取り組ませる。（1日2.8回）</p> <p>③ 月に1回「かけ足デー」を実施し、走る運動に取り組ませる。（1学期に実施済）</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【視点 健康・体力の保持・増進】年度目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康週間や「きら・ピカウイーク」の取組み、歯磨き指導などを行い、歯磨きの習慣化を図っている。10月現在で、学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか」の項目について86%の児童が「はい」と答えており目標を上回っている。</li> <li>ふれあい農園での栽培活動、栄養指導、企業による出前授業や給食カレンダーを用いて日々食に関</li> </ul>	



する指導を行うことを通して、食への興味・関心を高めている。

#### 取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】の進捗状況

- ① 毎月「きら・ピカウィーク」を設定し、ポスター掲示や放送で呼びかけを行っている。曜日ごとに歯磨きについてのめあてを決め、歯の磨き方の意識付けを図り、「給食後の歯みがき」の習慣が身についている児童が多い。
- ② 健康週間を学期に1回設定し、「給食後の歯みがき」の達成状況をグラフ化した。その結果、約8割の児童がほぼ毎日「給食後の歯みがき」を行っていることがわかった。

#### 取組内容②【区分 食育】の進捗状況

- ① 学級では、給食時間に、給食カレンダー・献立表を活用した指導をほぼ毎日行っている。また、給食委員会が毎給食時間に、全校放送で給食カレンダーを紹介したり食育クイズを行ったりしている。上記のように給食を通して、食への興味・関心を高めたり、栄養素や食事のマナーなど、食に関する知識を広めたりしている。
- ② 給食委員会で、6月に「食育」に関する発表を行い、三食食品群についての紹介をしたり、給食タイマーの意義や十三五か条の心得（ザ・給食編）について確認し合ったりした。
- ③ ボランティアの協力を得ながら、食育教材となる栽培活動を計画通り実施し、全学年が野菜作りに取り組んでいる。調理活動なども行い、楽しく食育の学習を行うことができた。後期の計画については、これから実施していく。
- ④ 6月の土曜授業で、学校保健委員会が「食生活を見直そう」の発表を行い、児童と家庭に砂糖の役割を知らせ、適切な食生活を送る大切さについて関心を高めることができた。また、授業参観で食育に関する授業を年1回以上行う計画を立て、すでに実施した学年もある。保護者と一緒に調理活動を行ったり、ホームページで学校の食に関する取組について紹介したりして、保護者にも啓発を図っている。

#### 取組内容③【区分 体育的活動の充実】の進捗状況

- ① 1学期はチャレンジカードを活用したり、ミュージックタイマーを活用し、なわとびの種目と時間を音楽で区切って実施をしたことで、楽しみながら体力を高めることができている。また、普通の体育科の授業でも取り組んでおり、技能が向上してきている。
- ② ・日ごろから外で遊べるときは声掛けを行っており、目標の3回に近づいている。  
・運動会が終わり、運動場が使えるときには元気に外で遊んでいる姿が見られる。
- ③ 夏季期間中を除いてかけ足に取り組んでいる。

### 今後の改善点

#### 【視点 健康・体力の保持・増進】の改善点

- ① 給食後の歯磨きについては、目標を上回っているが、家庭で歯磨きをしない児童がいるので、家庭に呼びかけ、家庭での歯磨きを習慣化する。
- ② 食に関する授業公開が未実施の学年は、2月の参観までに計画的に実施する。栽培した野菜を使った調理活動を計画的に行い、児童の食への興味・関心を高め、学校アンケートで「食を楽しく学ぶことができた」と答える児童が85パーセント以上となることをめざす。

#### 取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】の改善点

- ① 「給食後の歯みがき」をしない児童の理由が、歯ブラシを忘れる、給食を時間内に食べ終わることができず歯磨きタイムになっても食べていることがあげられる。歯ブラシ忘れについては、家庭の協力を得て忘れ物をなくすようにしていく。給食に関しては完食をめざす指導を行うが、苦手なものは6年間かけて食べられるようにするという観点にたち、13時15分をめどに給食を終え、歯みがきの時間を確保するようにしていく。  
歯みがきをしたことがわかるように「きら・ピカウィーク」に各クラスごとに表を作り、歯みがきをしたらシールを貼るようにする。がんばり表を作ることで、歯みがきをした人数がわかると同時に、目標達成に向けて意欲の向上をはかっていく。

- ② 「健康生活チェック」の結果を家庭に知らせ、家庭での歯みがきの習慣化を図るよう啓発していく。

**取組内容②【区分 食育】の進捗状況の改善点**

- ・ 昨年度、一昨年度の「食育」に関する取組を参考にしたり、紙芝居、フードモデルなどの教材・教具を活用したりしながら、食に関する指導を継続的に進めていく。

**取組内容③【区分 体育的活動の充実】の改善点**

- ① 日常的になわとび運動を行う工夫をする。
  - ・ 週1回程度の「なわとびの日」を設定する。
  - ・ なわとびボードの修繕、入れ替えを行う。(予算、材料等)
- ② 学級遊び等を工夫し、外遊びをするよう促す。
  - ・ 運動場の設備環境を検討し、必要であれば次年度予算にあげる。

大阪市立十三小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 道徳心・社会性の育成】</b> ① 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。(74%) (カリキュラム改革関連) ② 学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。(85%) (カリキュラム改革関連) ③ 学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を85%以上にする。(88%) (カリキュラム改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】</b> 自尊感情を高めるとともに、互いを認め合う態度を育てることができるよう、年間計画に基づいて人権教育を実施する。(カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> ① 年間計画を策定し、年間計画に基づいて人権教育を実施する。(実施中) ② 月1回児童に関する研修会（児童理解研修会・特別支援教育全体会等）を実施し、共通理解を図る。(毎月実施) ③ 月1回以上、なかよし班活動や児童集会などの異学年交流を図り、互いに理解し学び合う機会を設定する。(月約3回実施) ④ 各種名人を様々な分野で設定し、児童みんなで認め合う場を設ける。(実施済)	
<b>取組内容②【区分 特別支援教育の充実】</b> 「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、それらに基づく指導を実施するとともに、特別支援を要する児童と周りの児童がともに活動・交流する機会を増やす取組を実施する。(カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> ① 特別支援を要する児童と周りの児童が、ともに活動・交流しながら理解し学び合う機会を毎月実施する。(児童集会などで毎月実施) ② 保護者や医療機関、こども相談センター等との連携を月1回以上実施する。(月1回以上実施)	
<b>取組内容③【区分 道徳教育の推進】</b> 道徳の時間を要として、各教科・領域で話し合いやグループ活動等で、相互理解・共感を広げる取組を行うことにより、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。(カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> ① 年間指導計画に基づいて学習指導要領に示されている全ての項目を指導する。(実施中) ② 「親切・思いやり」の項目に関する指導を、全学年が年1回授業参観で実施する。(全学年実施) ③ 年2回「親切・思いやり」週間を実施し、「気持ちカード」を作成してふりかえりを行う。(6月に1回目を実施済)	
<b>取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】</b> 学校のきまりを守ることにについて生活目標を設定し、日常的に繰り返し指導する。(カリキュラム改革関連)	B

指標	① 毎月、生活目標についてアンケートを実施し、グラフ化する。(毎月実施) ② 月目標や週目標・学校行事・学級指導・教科・領域での指導などあらゆる機会を通し、日常的に学校のきまりを守ることの意義や重要性を指導する。	
取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】	「安全（防犯・防災）マニュアル」を更に見直すとともに、家庭・地域参加型の防犯・防災訓練を実施する。 (カリキュラム改革関連)	A
指標	① 防災や防犯など、さまざまな場面を想定した避難訓練を年間3回実施する。 (火災1回、不審者2回、実施済) ② 防犯教室・交通安全指導を、警察署等と連携して、それぞれ年1回実施する。 (それぞれ1回ずつ実施済)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【視点 道徳心・社会性の育成】年度目標の達成状況 ・ 友だちにやさしく親切に接したり、学校のきまりを守ることは多くの児童ができている。また、多くの児童が「自分の良さ」をみつけることができている。		
取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】の進捗状況 ① 学年の発達段階に応じた人権学習の年間計画を策定し、計画に基づいて人権教育を実施している。 ② 月1回児童に関する研修会（児童理解研修会、特別支援教育全体会等）を実施し、気になる児童や支援を要する児童の共通理解を図っている。該当児童に関して全教職員で情報を収集し、指導に役立てている。 ③ なかよし集会（7月）、なかよし遠足（10月）など学期に1回は縦割り班で協力して活動する行事を組んでいる。毎週の児童集会や隣接学年との交流など異学年交流の場を積極的に設けることにより、日常的にふれ合い、互いに認め合い学び合う機会となっている。 ④ 自己申告制で様々な分野の「十三がんばり名人」を募り、給食時の放送で全校児童に紹介した。人に認められる心地よさを実感したり、友達の意外な一面を知ったりするなど、自他を認め合う機会となった。		
取組内容②【区分 特別支援教育の充実】の進捗状況 ① 児童集会やなかよし班活動、学級での取り組みや校内掲示板等で学習の様子を紹介すること等を通して、特別支援を要する児童と周りの児童が共に活動し、自然な形で交流することができている。日常的ななかかわりが特別支援を要する児童を理解する機会となり、異学年の児童からの声かけも多く見られるようになってきた。 ② 保護者とは毎日連絡ノートで家庭と学校の様子を知らせ合い、必要に応じて医療機関やこども相談センター等と連携を図り、より良い支援や指導を行うよう努めている。		
取組内容③【区分 道徳教育の推進】の進捗状況 ・ 道徳の時間を要として、各教科・領域で話し合いやグループ活動等で、相互理解・共感を広げる取組を行っている。児童集会やなかよし遠足など、たて割りのなかよし班で組織された活動に取り組む中で、上級生が下級生をいたわる行動が多く見られるようになり、思いやりの気持ちが育ってきている。 ① 道徳年間指導計画別葉を作成し、他教科・領域との関連を図りながら指導に当たっている。また、年間指導計画に基づき学習指導要領に示されている全ての項目を指導するよう1学期までの内容項目の確認を行い、計画通り実施している。 ② 各学年が1回は重点項目の「親切・思いやり」に関わる道徳の学習を授業参観で行う計画を立て、10月の授業参観では、6学級が実施した。また、道徳の学習を参観授業で公開するに当たり、校内研修として道徳推進教諭による道徳の授業公開を行った。 ③ 6月に「一日に一回は良いことをしよう」を目標にあげ、「親切・思いやり」週間を実施した。「気持ちカード」を作成し、親切について児童が振り返りを行えるようにした。さらに、「みんなのステ木」		

と題して、学年ごとに全児童の「気持ちカード」を掲示して読みあうことで、相手の立場に立って親切にするということを意識づけるようにしてきた。

#### 取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】の進捗状況

- ① 生活目標についてアンケートを実施し、グラフ化して教職員で共通理解を図ることで学校全体の児童がどのくらいきまりを守れているか把握することができている。また、児童の課題を把握し、指導に生かすようにしている。
- ② 全校朝会時や日々の学級指導などで学校のきまりを守ることの意義や重要性を指導している。また、児童理解研修会や職員会議、職員朝会等で共通理解を図りながら、全教職員で組織的に取り組んでいる。

#### 取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】の進捗状況

- ・ 地域、保護者、淀川警察やセーフティ淀川との連携を強化し、計画に沿って実施することができている。課題があってもそのつど検討している。
- ・ 学校・家庭・地域が一体となった防災訓練を実施済。

### 今後の改善点

#### 【視点 道徳心・社会性の育成】の改善点

- ・ 多くの児童が「自分の良さ」を認めることができている中で、自尊感情が低く物事をマイナスイメージでとらえて、攻撃的になってしまいがちな児童もいる。そのような児童の理解に努め、道徳心・社会性を育成できるように取り組んでいく。
- ・ 子どもへの言葉遣いは丁寧語で。指名するときや呼ぶときは「～さん」で呼ぶ。
- ・ 「ほめる」「認める」を中心に。課題がある場合も「ほめるために叱る」

#### 取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】の改善点

- ・ 年間指導計画に基づき、未実施の内容項目の指導を行う。
- ・ 児童集会のゲームでペアやなかよし班で協力して取り組むもの（手つなぎ鬼、二人三脚など）を取り入れ、なかよし班で活動する場を増やす。

#### 取組内容②【区分 特別支援教育の充実】の改善点

- ・ 個別の教育支援計画や指導計画を日々の指導に生かし、さらに研修を充実させる。日常的に交流できる取り組み（児童集会、なかよし班活動、異学年交流、みんな遊びなど）を継続する。

#### 取組内容③【区分 道徳教育の推進】の改善点

- ① 学習指導要領に示されている全ての項目を指導するよう計画通り実施し、2学期までの内容項目の確認を行う。また、指導計画どおり実施していくなかで、指導時期や内容について改善点があれば記録し、年度末に年間指導計画の見直しを図る。
- ② 学習したことを行動に生かし、学級活動などで友達を理解し思いやりの気持ちがもてるような実践につながる取組を計画する。  
日々の取り組みとして、終わりの会で一日を振り返り、友達のよいところを見つけ合ったり認め合ったりする取組を行う。
- ③ 12月の「親切・思いやり週間」では、思いやりについて考えたことを絵カードにし、「思いやりかるた」として掲示するなど、思いやりについて考える取組を行う。

#### 取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】の改善点

- ・ 放送委員会が朝、昼の放送時に今週の生活目標を読み上げ、児童に呼びかける。
- ・ 「十三 五か条の心得」の子ども達への浸透を図るようにする。  
朝の会等で意識づけを図る。  
始業式や終業式で「十三 五か条の心得」について指導する。

- ・ 児童理解研修会の中で、学校のきまりや生活指導全般についても報告・確認するようにする。
- ・ 学習規律の徹底  
教室移動時は、教師先導で静かに移動する。  
児童の持ち物について再度確認する。  
上ぐつ、下ぐつの置き場を確認する。

**取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】の改善点**

- ① 不審者対応避難訓練において次年度の取り組みは以下のことを検討する。
- ・ 初期対応で突破され、不審者が運動場や校舎に侵入した場合にどうするか。
  - ・ 初期対応は3人で十分か。いかにして児童、職員の命を守るか。
  - ・ 通報から警察が駆けつけてるまでの5分間をいかに持ちこたえるかという視点で検討する。
  - ・ 第1次避難場所は教室でよいか。担任不在の場合の場所はどうするか。
  - ・ 1回目は休み時間に実施し、初期対応でおさえる。2回目は休み時間に初期対応で突破されたことを想定して実施する。
  - ・ 次年度は引き渡し訓練を実施する。
- 「防災・減災教育カリキュラム」を作成する。

大阪市立十三小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 学校・地域の連携】</b> ① 学校教育に関わる取り組みへの家庭・地域の参加者数を、年間 350 人以上にする。(173 人) (ガバナンス改革関連) ② 学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を 85% 以上にする。(93%) (保護者アンケートにより検証する) (ガバナンス改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<b>取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】</b> 学校行事や教科・領域指導・読み聞かせ・放課後ステップアップ教室・見守り隊活動・交通安全指導・防犯・防災訓練などの取組への家庭・地域の参加を図る。 <span style="float:right">(ガバナンス改革関連)</span>		A
<b>指標</b> 「地域との活動 年間指導計画」を策定し、取組内容や時期・参加体制等を一覧表にして地域に配布し、ホームページに掲載する。(配布、掲載済)		
<b>取組内容②【区分 情報発信】</b> 学校だより・学校ホームページを通して情報を発信し、学校の取組に対する情報の共有を推進する。 <span style="float:right">(ガバナンス改革関連)</span>		A
<b>指標</b> ① 学校だよりを月1回以上発行し、情報の共有を図る。(学校だより月1回、特別号1回発行) ② 情報の共有を図るため、学校ホームページを週2回以上更新する。(週2.9回更新)		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<b>【視点 学校・地域の連携】</b> 年度目標の達成状況 ・ さまざまな取り組みを家庭・地域に紹介し、前期に173名の参加者に来ていただくことができた。また、学校だよりやホームページなどを通して、学校から発信する情報を93%の保護者が認知することができた。		
<b>取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】の進捗状況</b> ・ 「地域との活動 年間指導計画」を策定し、取組内容や時期・参加体制等を一覧表にして地域に配布し、ホームページに掲載している。学校行事・読み聞かせ・はぐくみ(図書室整備)・放課後ステップアップ教室・見守り活動・交通安全指導・防犯防災訓練など、様々な学校の取組に多くの保護者や地域の方々に参加してもらうことができている。		
<b>取組内容②【区分 情報発信】の進捗状況</b> ・ 毎月の学校だよりはもちろん、学校だより特別号では、児童・保護者アンケートの結果を分析し、グラフにすることでわかりやすく伝えることができた。 ・ 学校ホームページを週に2回以上更新することで、半期が終わった時点でホームページの閲覧総数が1万アクセスを超え、地域・保護者がホームページに関心を寄せている。		

## 今後の改善点

### 【視点 学校・地域の連携】の改善点

- ・ 引き続き取組内容や計画を保護者・地域に連絡し、参加者数の目標を達成することができるようにする。
- ・ はぐくみネットを組織化し実効あるものにしていく。

### 取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】の改善点

- ・ はぐくみネットを組織化し、学校支援の体制を整えるとともに、よりよい学校支援の活動を模索していく。

### 取組内容②【区分 情報発信】の改善点

- ・ ホームページを作成しやすい体制づくりために「ホームページ作成委員会」を立ち上げ、ホームページ作成における課題や取組について話し合い、よりよいホームページ作成の体制・取組等について計画・作成する。
- ・ C I O（情報教育担当者）を中心に、学級担任以外の教師で「〇年生の取組」「今日の〇年生」なども作成していく。
- ・ 委員会活動、クラブ活動の様子もホームページ作成で紹介していく。